

学校だより 1月号

TEL 048 (548) 1004

FAX 048 (547) 1467

令和2年1月8日
鴻巣市立小谷小学校

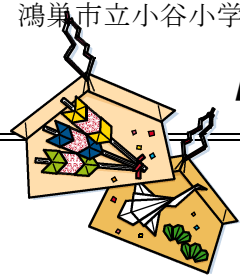
小谷っ子

URL <http://koya-e.konosu.ed.jp>

e-mail koya-e@city.konosu.ed.jp

毎月19日は「食育の日」です。

【学校教育目標】 夢・希望にあふれる心豊かな児童の育成



テストジャンパーの物語 ～支えてくれる人がいることを忘れないで～



校長 池澤 道弘

年が明けて令和2年となり、今年度も残すところ後3か月となりました。学校ではこの3か月間で、各学年とも学習面、生活面の両面から今年度の仕上げをしまいにします。保護者や地域の皆様におかれましては、引き続き本校の教育活動にご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

さて、最近はいろいろな「〇〇の日」というのをよく耳にするようになりました。調べてみるとそれぞれの記念日に意味や由来があり、面白い語呂合わせなどもたくさんあります。因みに今日1月8日は「外国郵便の日」「勝負事の日」などいくつかの記念日に制定されています。では、1月12日は何の日かご存知でしょうか。もちろん一つでないのですが、私にとって一番縁が深いのは「スキーの日」です。日本の近代スキーは、1911年（明治44年）オーストリアのレルヒ少佐が豪雪地である新潟県高田の第13師団に着任し、軍人にアルペンスキー術の指導を行ったのが始まりです。レルヒ少佐は日本で初めての本格的なスキー術の講習会を1月12日から2か月間34回にわたって実施するなど、日本のスキー界に多大な貢献をしました。このレルヒ少佐によって初めて本格的なスキー講習が行われた1月12日が「スキーの日」です。今回は1月に「スキーの日」があることを踏まえ、昨年度の卒業式式辞でも触れた「テストジャンパーの物語」をご紹介します。

平成10年の長野オリンピック。日本はスキージャンプ男子団体に金メダルを獲得しています。もちろん金メダルを獲得した瞬間や表彰式の様子は大きく報道されたのですが、同じくらいクローズアップされたのが、まだ金メダルは決まっていなかったにも拘わらず、三番手の原田選手が二本目を飛び終わった後に涙でインタビューを受けている映像です。これには理由があります。長野の前に行われたリレハンメルオリンピックで、日本はジャンプ団体の金メダル候補だったにも拘わらず、日本の最終ジャンパー原田選手の失敗ジャンプが響き、銀メダルに終わっていたのです。その時の原田選手の心境は想像を絶するものだったに違いありません。

そして迎えた、日本開催の長野オリンピック。日本の三番手として登場した原田選手の1回目は、ほとんど前も見えないような大雪の中で行われました。そのため、このグループの選手は軒並み距離を落としましたが、その中でも原田選手は、80mにも及ばないグループ最下位の大失敗ジャンプになってしまい、二人目までトップだった日本の順位は2位に下がってしまいました。さらに他国の四人目が大ジャンプ続出の中、船木選手だけが悪天候の影響で飛距離が伸びず、一本目終了時点で日本は4位まで後退してしまいました。

ここで、逆転に賭ける日本選手団の前に立ち上がったのが悪天候です。大雪で視界が悪く、競技委員は一本目終了時点で打ち切りを検討していました。二本目が行われるかどうかはテストジャンプの結果次第となり、日本の金メダルへの夢はテストジャンパーに託されることになったのです。この時、日本の希望を背負った25名のテストジャンパー達は、悪天候の中で一人の転倒者を出すことなく試技を続け、競技再開が可能な事を証明してみせました。競技委員はこの結果を見て、二本目の実施を決断したのです。原田選手は2本目「両足を複雑骨折してもいい」との覚悟で137mの大ジャンプを決め、金メダルへの立役者となりましたが、日本の金メダルや原田選手の涙の活躍の陰には、決してスポットライトの当たらないテストジャンパーの決死の物語があったのです。

学校においても、子どもたちの活躍や成長の陰には、教職員、保護者の皆様、地域の方々など、たくさんの人の支えがあります。こうした方がいることに気づき、その思いに感謝の気持ちをもって自分を磨いていける、そんな小谷っ子になってほしいと、新しい年のスタートにあたり、改めて思った次第です。



Japan	T. Okabe	H. Saito
GOLD	M. Harada	K. Funaki